

## 2021公認スキー検定員クリニック理論

スキー検定員クリニックを受講の皆さんこんにちわ。専門員の齋藤です。

本来であれば皆さんにお会いして理論研修を行うべきではありますが、新型コロナウイルス感染防止の観点からこのような形での研修になることをお許しください。

さて、今シーズン1級バッジテストの種目が7シーズンぶりに種目変更になり横滑りから総合滑降へと変わりました。1級検定に横滑りの種目が採用されるに至った経緯は、カービングスキーの普及により、スキー場ゲレンデ内において、スキーヤーのスピードコントロールの未熟から、過度の内倒スキーヤーや暴走スキーヤーを減らし、滑走スピードやターン弧を適正にコントロールできる技能や技術の習得にありました。

現スキー教程が発刊されてからは、一般スキーヤーがスキースクールやスキー教室などで横滑りを活用したさまざまなレッスンを受講することで理解も深まり、滑走中におけるスピードやターンコントロールの技能・技術の精度が向上してきました。

しかし、検定規定の変更により級別テストの受検年齢が引き下げられ、とくに小学生以下の受検者には、スキーの長さが短く、筋力不足から、重く湿った雪の上やアイスバーンでの横滑りは、正確な技術が引き出しにくく、成人との整合性がとれず、技能・技術を公平にジャッジすることが困難である、などの意見が全国の指導現場から多数寄せられました。

併せて級別テストの最高位の検定種目として、中急斜度の総合斜面における一定のスピードの中でのターン弧、滑走方向、リズムやタイミングを自在にコントロールできる技能・技術を適正に評価し、より実践的な滑走を評価する種目へ変更することといたしました。

横滑りは1級検定の種目外となりますが、ターン運動に必要な適度な外向姿勢やスキーの前後差など技術のベースには横滑りの要素が不可欠であり、スキー指導の現場では引き続き、横滑りの技能・技術の習得やカリキュラムの工夫が必要となります。

SAJ から毎年発刊されている本には皆さんが手にしているオフィスブックのほかに、「資格検定受検者のために」があります。2021年度版からは指導員、準指導員検定、プライズテスト、級別テスト、それぞれの種目について「検定員の観点」が記載されています。

受検者にとっては「検定員はどこをみているのか。」ですが検定員側からもあらためてジャッジの観点として確認するにはとても良い資料となると思います。ぜひ一読することをおすすめします。

このシーズンはクラブ行事など、いろいろ難しい部分も多いと思われませんが、ぜひ皆さんのアイデアと行動力で指導活動を安全に継続できるよう期待しています。

雪上でのクリニックはそれぞれの班別になります。一般のスキーヤーを見ながら「この滑りは何点？どこが良かった、どこを改善したら、」などとディスカッションしていただき普段のクリニックではできなかったことができると思います。

最後にちゃんとクリニック理論を読んでいた皆さんに秘密の暗号です。

**【1級検定の総合滑降はかっこよく滑りたい】**

では、雪上でお会いしましょう。今シーズンの皆さんのご活躍をご祈念申し上げます。

齋藤貴次